
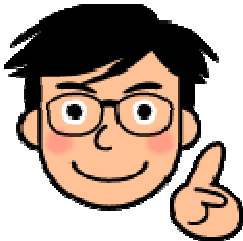


# 楽しい体育・保健体育科の授業をめざして

## 言語を活用した指導を通して - その1 -



体育・保健体育科の授業にも  
言語活動は必要なのかな？



今回は、体育・保健体育科の学習における「言語活動」のあり方や、「言語」をどのように授業に生かしていくかを皆さんといっしょに考えてみたいと思います。まずは、言語活動の充実がクローズアップされる背景から確認しましょう。

### STEP. 1 学習指導要領改訂の趣旨を確認してみましょう。

#### その1 体育科（保健体育科）の課題

##### 〈体育〉

- ◆ 運動する子どもとそうでない子どもの二極化
- ◆ 子どもの体力の低下が依然深刻
- ◆ 生涯にわたって運動に親しむ資質や能力の育成が十分に図られていない例も見られる
- ◆ 学習体験のないまま領域を選択しているのではないか

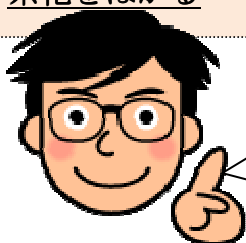
##### 〈保健〉

- ◆ 生涯にわたって自らの健康を適切に管理し改善していく資質や能力を育成するために、保健の内容の体系化を図ること
- ◆ 小学校低学年における健康に関する指導について、学習内容やその開始時期も含めて改善を図ること

#### その2 体育科（保健体育科）の改善の基本方針

##### 〈中教審答申より〉

- ◇ 保健と体育を関連させて指導する  
(心と体をより一体としてとらえ、健全な育成を促す)
- ◇ 学習したことを実生活、実社会で生かす
- ◇ 学校段階の接続及び発達の段階に応じて指導内容を整理し、明確に示すことで体系化をはかる  
(下線引用者)



学習指導要領解説（体育編、保健体育編）には、この基本方針に沿って、各学年で扱うべき運動や指導のポイントが体系的に例示されており、大変わかりやすい内容となっています。

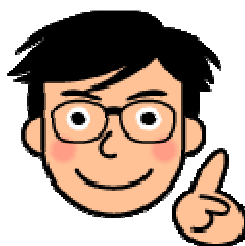
## STEP. 2 体育科（保健体育科）の目標を確認してみましょう。

### 〈体育科〉

心と体を一体としてとらえ、適切な運動の経験と健康・安全についての理解を通して、生涯にわたって運動に親しむ資質や能力の**基礎**を育てるとともに健康の保持増進と体力の向上を図り、楽しく明るい生活を営む態度を育てる。

### 〈保健体育科〉

心と体を一体としてとらえ、運動や健康・安全についての理解と**運動の合理的な実践**を通して、生涯にわたって運動に親しむ資質や能力を育てるとともに健康の保持増進のための**実践力の育成**と体力の向上を図り、明るく**豊かな**生活を営む態度を育てる。  
(下線引用者)



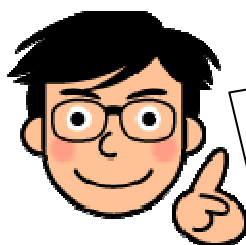
教科の目標には、小学校と中学校の発達の段階を考慮した微妙な差が表れています。学年や校種間の接続を意識して指導に当たることが求められています。

## STEP. 3 言語活動の充実が求められる理由を理解しましょう。

### その1 思考力、判断力、表現力等をはぐくむ観点から

「小学習指導要領第1章総則第4の2」において次のように示されています。

- (1) 各教科等の指導に当たっては、児童の思考力、判断力、表現力等をはぐくむ観点から、基礎的・基本的な知識及び技能の活用を図る学習活動を重視するとともに、言語に対する関心や理解を含め、言語に関する能力の育成を図る上で必要な言語環境を整え、児童の言語活動を充実すること。



上記の他に、「小・中学習指導要領解説（総則編）教育課程実施上の配慮事項」には、次のよう示されています。

「知識・技能を習得するのも、これらを活用し課題を解決するために思考し、判断し、表現するのもすべて言語によって行われるものであり、これらの学習活動の基盤となるのは、言語に関する能力である。さらに言語は、理論的思考だけではなく、コミュニケーションや感性・情緒の基盤でもあり、豊かな心をはぐくむ上でも、言語に関する能力を高めていくことが求められている。したがって、今回の改訂においては、言語に関する能力の育成を重視し、各教科等において言語活動を重視することとしている。」

これらのことから、言語活動の充実が求められる理由が納得できますね。

## その2 教科の究極の目標である『生涯にわたって健康を保持増進し、豊かなスポーツライフを実現する』という観点から（下線引用者）

### ○教育基本法

「生涯にわたり学習する基盤が培われるよう、基礎的な知識及び技能を習得させるとともに、これらを活用して課題を解決するために必要な思考力、判断力、表現力、その他の能力をはぐくみ、主体的に学習に取り組む態度を養うことに、特に意を用いなければならない」

### ○小学校学習指導要領解説 体育編

「生涯にわたって運動に親しむ資質や能力」とは、運動への関心や自ら運動をする意欲、仲間と仲良く運動すること、各種の運動の楽しさや喜びを味わえるよう自ら考えたり工夫したりする力、運動の技能などを指している。

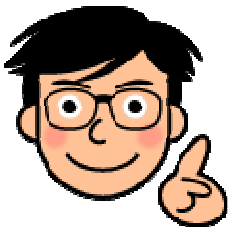
これらの資質や能力を育てるためには、児童の能力・適性、興味・関心等に応じて運動の楽しさや喜びを味わい、自ら考えたり工夫したりしながら運動の課題を解決するなどの学習が重要である。

### ○中学校学習指導要領解説 保健体育編

「生涯にわたって運動に親しむ資質や能力」とは、それぞれの運動が有する特性や魅力に応じて、その楽しさや喜びを味わおうとするとともに、構成に取り組む、互いに協力する、自己の責任を果たす、参画するなどの意欲や健康・安全への態度、運動を合理的に実践するための運動の技能や知識、それらを運動実践に活用するなどの思考力、判断力などを指している。

これらの資質や能力を育てるためには、体を動かすことが、情緒面や知的な発達を促し、集団的活動や身体表現などを通してコミュニケーション能力を育成することや、筋道を立てて練習や作戦を考え、改善の方法などを互いに話し合う活動を通じて論理的思考力をはぐくむことにも資することを踏まえ、運動の楽しさや喜びを味わえるよう基礎的な運動の技能や知識を確実に身に付けるとともに、それらを活用して、自らの運動の課題を解決するなどの学習をバランスよく行うことが重要である。

## その3 楽しい授業にするために



教科の目標を達成するための最も大きな原動力となるのは、『楽しい授業』の実践と言えます。子どもたちが『楽しい授業』を体感するのは、自己の体力や技能を向上させたり、チームで協力して成果をあげたりしたときです。ただし、喜びや楽しさ、達成感や満足感は、「偶然できた」「教わってできた」「協力してできた」「自分で工夫してできた」など、そのときの状況やそこに至るまでの学習活動によっても違ってくるものです。また、演技が完全にはできなかったとしても、思考や判断することで運動のこつを理解することができれば、『楽しい授業』を実感することができるのではないのでしょうか。

私たち教師には、言語活動を充実させながら、子どもたちの思考力、判断力、表現力をはぐくんで、これまで以上に、子どもたちが『楽しい授業』を体感できるようにしていくことが求められているのですね。

STEP. 4 体育科（保健体育科）における言語活動とはどのようなことか  
確認しましょう。

『言語活動の充実に関する指導事例集』（文部科学省）教科等の特質を踏まえた指導の充実及び留意事項から

〈小学校版〉

コミュニケーション能力を育成したり、論理的思考力を育んだりする観点から、ゲームや練習などにおける励ましや協力をする、及び練習方法や作戦を考えたり、成果を振り返ったりするために話し合う活動を充実する。また、健康・安全に関する知識を活用する学習活動を充実する。

\*具体事項は、『言語活動の充実に関する指導事例集 〈小学校版〉』の P.15 を参照してください。

〈中学校〉

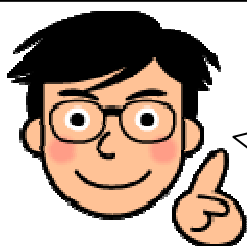
生涯にわたって運動に親しみ、健康の保持増進を図る資質や能力の育成を図る観点から、主に体を動かす活動を通して、コミュニケーションや感性・情緒に関する学習活動及び知的活動を充実する。また、健康・安全に関する知識を活用する学習活動を充実する。

\*具体事項は、『言語活動の充実に関する指導事例集 〈中学校版〉』の P.14 を参照してください。

理論的にはわかったけど、実際にどのように活用しよう？



STEP. 5 参考資料等からイメージしましょう。



言語活動を充実させる指導例について資料『体育科（保健体育科）の運動領域（体育分野）における言語の活用の例』を作成しました。次ページに掲載しておりますので、是非、授業にお役立てください。

次回は、言語活動を位置付けた授業の指導事例を紹介します。

◇体育科（保健体育科）の運動領域（体育分野）における言語の活用の例◇

H24.10. 会津教育事務所

◎ 言語は知的活動の基盤であり、コミュニケーションや感性・情緒の基盤であるとされています。この言語の果たす役割を踏まえたうえで、言語活動が単に活動に終始することなく、教科のねらいを実現するために意図的、計画的に位置づけることが重要です。

〈言語活動の活用場面〉

◇教師の働きかけ

その際に、留意したい事項

〈実態把握・事前調査〉

◇調査用紙を作成し、児童生徒が考え、記入する場を設定します。

単なる○・×や A・B・C などの記入で終わることなく、単元に対する関心や意識（学習したい内容や得意・不得意の理由など）について、自分の考えや思いを記述させることで、いっそう論理や思考が深まります。

〈オリエンテーション〉

◇自己の目標の設定や身に付けたい技能や体力などについて考え、それを記述したり、発表したりする場を設定します。

自分の現在の体力や技能などをしっかり見つめさせ、目標を立てさせることがねらいです。また、自分の意見や意思を他者へ伝えたり、他者の考えを聞いたりすることで、自分と他者を比較し、本当に自分の立てた目標や計画が実態にふさわしいものなのか考えることにもつながります。

毎時の授業

〈導入〉

◇本時のねらいから、自己の目標を設定させたり、学習にふさわしい準備運動を選択させたりします。

\* 言語を用いた学習活動は、次の事項などについて考え、言葉や文字、身体表現や図や絵で表現するなどして自分の考えや意見を伝えます。

〈導入における言語の活用例〉

- ・学習の振り返りや課題を確認し目標を立てる。
- ・学習内容にふさわしい準備運動をグループで選択する。

〈展開における言語の活用例〉

- ・相手や仲間へ励ましや称賛の声をかける。
- ・自己観察や他者観察からの気づきを教え合う。
- ・模範（映像）や他者との比較から改善方法を教え合う。
- ・チームの練習方法や作戦を話し合う。
- ・楽しくなるためのルールや方法を話し合う。

〈展開〉

◇自己の考えを深めたり、発表したりする場を設定します。

◇児童生徒の「伝え合い」「教え合い」「話し合い」の場を設定します。

〈終末における言語活動の例〉

- ・本時のねらいの達成の度合いと理由などを発表する。
- ・次時に向けての目標や課題を文章で記述する。

〈終末〉

◇本時のねらいが達成できたのか否か、またなぜそうだったのかなど、学習活動を振り返る場を設定します。

「伝え合い」

自分の考えや感じたことを相手に伝えます。「こうしたらできた」「ここが大事だ」など。

「教え合い」

動きの改善点など自分の気づきを相手に教えます。「こうすればいいよ」「そうするとできそうだよ」など。

「話し合い」

チームで作戦や練習計画を立てるなど、みんなで考えを出し合い一つの方向性を見いだします。

◎必要に応じて、学習カードに記入する場面を設定し、思考やコミュニケーションのいっそうの深化・拡充を図ります。

\*表面では見えにくい「思考・判断」が可視化され、評価に役立ちます。